

事項	クロフサスグリ（カシス）の枝幹害虫として本州で初確認されたスグリコスカシバの被害様相と防除対策		
ねらい	青森県八戸市南郷区及び青森市高田のクロフサスグリ（別名カシス）の園地において、北海道に次いで二例目、本州で初となるスグリコスカシバ <i>Synanthedon tipuliformis</i> の被害が確認された。本種の発生は五戸町でも認められ、県内に広く生息して被害を及ぼしている可能性が高いので、発生確認の経緯と被害様相を参考に供する。		
指導内容	<p>1 発生確認の経緯</p> <p>(1) 平成20年5月、八戸市南郷区中野のクロフサスグリにおいて、枝の内部に侵入して主に随部を食害する害虫被害が認められた。</p> <p>(2) 被害枝から採取した幼虫を25℃で飼育した結果、18日後にスカシバガ科に属するスグリコスカシバ <i>Synanthedon tipuliformis</i> の成虫が得られた（平成20年6月、名城大学の有田豊教授により同定）。</p> <p>(3) 平成21年5～6月、八戸市南郷区中野、青森市高田及び五戸町扇田のクロフサスグリにおいて、園内を飛翔するスグリコスカシバの成虫が確認された。</p> <p>(4) 栽培歴30年の青森市高田の園地では被害株率が73.9%であった。</p> <p>(5) 本種の発生確認は北海道に次いで二例目、本州では初めてであった。</p> <p>2 被害枝の特徴</p> <p>(1) 虫糞や蛹殻が付着している脱出口が認められ、木質部は褐変して空洞化している。</p> <p>(2) 被害枝は脱出口の部分から折れやすい。</p> <p>(3) 被害枝は葉、果実がやや小さく、一部では萎凋・葉枯れを生じている場合もある。</p> <p>3 防除対策</p> <p>(1) 本種に農薬登録のある防除薬剤はない。</p> <p>(2) 本種は年1回の発生であるので、虫糞の発生が確認された場合には成虫羽化前の5月半ば頃までに被害枝や剪定枝を園外に運び出し、適切に処分する。</p>		
期待される効果	これまで原因不明であった枝幹での害虫被害をスグリコスカシバに起因すると診断できる。		
普及上の注意事項	<p>1 北海道での初発生の経緯等は岩崎・有田（2008）の報告、北海道からのフサスグリの外来種スカシバガ（スカシバガ科）の発見 蝶と蛾 59(1)：45-48. に詳しく記載されているので参考にできる。</p> <p>2 本種は昼行性であり、本県では5月末～6月初め頃から園内を飛翔する成虫を観察できるので、本種による被害診断の決め手になる。</p>		
担当部署 (担当者名)	りんご研究所 県南果樹部 (村井智子、雪田金助)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成21年度 試験研究成績概要集（りんご研究所）		

【根拠となった主要な試験結果】



① 被害枝の萎凋



② 虫糞



③ 蛹殻

写真1 被害枝の特徴



① 被害枝と幼虫



② 雌成虫



③ 雄成虫

写真2 被害枝に潜む幼虫と成虫

表1 スグリコスカシバの発生状況

(平成21年、青森りんご研県南果樹部)

調査園地	カシス栽培歴	成虫の飛翔	被害枝	被害株率
青森市高田	約30年	+++	+++	73.9%
青森市浪岡	4	-	-	調査なし
八戸市南郷区	5	++	++	調査なし
五戸町扇田	3	+	-	調査なし

(注) +は数が多いほど成虫の飛翔及び被害枝が多いことを示す。